

<金標準、利上げ憶測を織り込み、売られ過ぎの域か・・・>



(出所：オアシス)

米国とイランがスイスで和平協議に入り、ホルムズ海峡の閉鎖も解除され、海峡を航行する船舶も通常の78%まで回復するなど、WTI原油先物価格は開戦前の水準を下回っている。そのためエネルギー価格の低下に伴い、インフレ懸念は後退している。しかし18日に開催されたFOMC以降は、FOMCメンバーが年内の利上げを予測し、就任後初めてのケビン・ウォーシュFRB議長の記事会見でもタカ派の発言を行った事から、市場は利上げを織り込む動きを続け、金利を生まない金は投資妙味が後退し、ドルの上昇や金利が高止まりするとの観測から、WGCのデータによると金を裏付けとするETFは5月に16トンの純流出を記録し、6月前半も流出が続くなど、心理的に重要な節目水準の1オンス=4000ドルを昨年11月以来初めて割り込んでいる。そのため金標準先物も中東情勢が落ち着くも、FOMC前に付けた安値21232円を先週には21032円まで下値を試し、悲観のムードは強まるも売られ過ぎた反動が起こってもおかしくなく、今週は自律反発に注意が必要に思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが切り上げ、シグナルは切り下げている。RCIは短期が切り上げ、長期は-80%以下を維持している。ただ指数平滑移動平均線の短期が下げ渋っており、22700円に向けた戻りが期待されると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,275,000 円(2026 年 6 月 29 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 95,040 円(2026 年 6 月 29 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>